

# 平成 23 年度 教育学部モニター会議まとめ

- ・この会議は、平成 24 年 3 月 16 日（金）午後 2 時～午後 3 時 35 分に教育学部 401 号教室で開催された。
- ・下記の記録は、教務委員会 F D ワーキングのメンバー(張間、秋山、加藤、大橋)と教務委員の杉林がパソコンで速記したものを、F D ワーキングの東が録音を元に補足した。常体の文書に直して標記している。
- ・2 の昨年度の意見に対する本年度の取り組みは、昨年度の意見を先に挙げ、本年度の対応を矢印で示した。
- ・3 の学生からの要望は、要望を四角で囲い、そのときのやりとりを一件ごとに(名前等)と発言を記録した。
- ・学生からの要望は、概ね、専修やコースからの意見を集約したものを代表者として述べている。
- ・会議中に対応できなかったものについては、関係者に照会し、回答を得られたものについては追記をした。

## 1. 副学部長挨拶

愛媛大学は、学生のための大学を第一に掲げて動いている。それをどれだけ実現しているのかということについてはまだまだ改善の余地があるということはわかっているが、具体的にどういふことを改善してゆけばいいのかということ、我々が気がつかない部分があると思う。我々も改善してゆける部分については取り組んでいるが、財政的な面で実現できていない部分もある。いずれにしても、皆さんが気がついていることを言ってもらって改善につなげたい。

話題は変わるが、愛媛大学は、全国の学長が支持し注目する大学の指標で 18 位にランクされている。これは、日本のすべての大学の中でということなので自負を持っていただきたいし、さらに高いランクと実感できるような大学でありたいと思っている。

この会議は、何を言ってもかまわないので、安心して発言をしていただけたらと思っている。

## 2. 昨年度の意見に対する本年度の取り組み（教務委員長）

平成 22 年度の終わり頃、モニター会議を開催し、たくさんの意見を頂いた。このモニター会議は、教務委員会の主催であるが、質問の内容が多岐にわたり、教務委員会では回答できない案件も含まれている。従って、本日は、各委員会の委員長の先生がたや事務の方々にご参加頂き、できる限り皆さんの要望に対して返事をしてゆきたい。

昨年度の意見に対して本年度どのような取り組みをしてきたのか、報告したい。

1. 履修の情報を確認するために、修学支援システムと掲示板を併用しなければならず、面倒である。一本化することはできないか。

→システムだけでは、質的量的に送信できないものがあり、併用は避けられない。

2. 言語聴覚士コースについて、履修単位の未記載など、シラバスに不備があった。

→今年度は、講座の教員が呼びかけてきちんと対応している。

3. 特別支援の学生が教育実習の関係で 3 回目からの講義への参加に出席となることについて、特にガイダンスで何を説明したのか、配慮がほしい。

→今年度は講座の教員から各担当教員をお願いをしており、特段の問題が発生していることは聞いていない。全体に行き渡っていない可能性もあるので、さらに問題があれば、ご指摘いただきたい。

4. 教職支援ルームの利用方法がわからない。中に入りづらい。開放されていない

→教職支援員の木村さんが、細かく掲示を行い、また、その掲示を見ている学生さんに積極的に声をかける等、情報が提供できるよう工夫をしている。

5. 大学院科目「教育の今日的課題」について、外部講師の講義について内容的な問題があるのではないか

→講義の趣旨や現職の院生がいることは、講義担当者に話をしている。ただ、受講生には、日本語があまりできない留学生、学部からの持ち上がりの人、現職の教員など多様な人がいて、レベルの設定が難しいということも理解してほしい。

6. 特別支援に関連する1年間の大学院について、時間的な余裕がないという指摘について

→制度設計的に時間が厳しいということは理解している。学部の授業をずらして大学院を優先し、できる限り時間に余裕ができるように工夫している。

7. 教員採用試験の県外の情報が乏しい

→本年度も、四国全県、広島、岡山、福岡、神奈川など、受験生が多い所の問題を集めている。これは教職支援ルームにおいている。ファイル化しているのでわかりづらいかもしれないので、必要があれば、教職支援員に声をかけてほしい。

8. 水道などの設備の未整備について

→実践センター・国際理解の水道設備は整備が完了した。英語のパソコンも講座によって整備された。

9. プールの設備が劣悪なことについて

→施設担当者に相談している。大変申し訳ないが、配管をするには大きな費用が必要になり、現時点では愛媛大学では対応できない。温水の出るシャワーが体育館に付いたので、そちらを利用してほしい。

教務委員会の担当部分を中心に説明したが、他に補足があれば、会議中に紹介をお願いしたい。

### 3. 学生からの要望

#### (1) カリキュラム、授業内容、授業方法について

##### ●教育学専修

成績を早く開示してほしい。

→(田中)成績入力期間は限定している。ただし諸般の事情により現状のような時期に開示している。また全学的な取り決めであり、理解をいただきたい。

リフレクションデイの時間を短縮してほしい。

→(三浦)リフレクションデイについては、現状手探り状態である。若干細かすぎる点があるのではないかと考えている。問題意識は持っており、出来るだけ簡略化した形にする方向で検討してほしい旨を申し送り事項として挙げている。

## ●教育心理学専修

専修の授業内容が、「心理学実験」などの実験が多く、教育に関する授業が少ない印象を持っている。教育学部における教育心理学専修が置かれている意義、心理学専修で何が学べるのか教えてもらいたい。

- (張)今の話はよくわかる。教員は全体のカリキュラムの中で自分の授業をどう位置づけるのか、考えてシラバスを作成し授業を実践している。基本的な制度設計はそのようになっている。したがって、具体的な内容については、教務委員会から「こうしましょう」ということは難しい。専門家間で考えたり、授業を作る工夫は可能である。専門の先生方の中で意見交換しながら、皆さんのニーズにあうようなものを作るように努力してゆくことは可能である。
- (進行)心理学の専攻がなぜあるのかということについては先生がたに伝える。最初に言われた「心理の実験が多くて、教育が少ない」の「教育」というものがもう少し具体的にあれば、こんなものが勉強したいのだというものがあれば教えてほしい。

例えば、いじめや不登校という現在の学校でおきている問題や、児童期の発達に関する問題がそれに当たるのではないかと思う。今の授業がカウンセリングや統計を取ったりする実験ばかりで、学生の半分がカウンセラーや心理学の分野に進むが、2、3人は教員志望でこの勉強をやっていて来年度の教育実習は大丈夫なのかという意見が周りから出されている。

- (進行)学部 に在学する皆さんは、教員免許を取得するための教職科目を受けていると思うが、それだけではなく、心理学専修にもそのようなものがほしいということではよろしいか。(同意)

### 【追記】教育心理学専修の教員から以下のコメントを頂いております。

#### <専修というものの位置づけ>

各専修は独立した専攻ではありません。むしろ、様々な専修を寄せ集めて、学校教育教員養成課程という名前の学科を構成しています。従って、教育心理学専修で設定された専門科目だけを取るという前提は教育心理学専修生についても特にありません。従って、必要であると思う授業を専修とは関係なく取ることができます。例えば、指導案の書き方は教科教育法等で学べますし、教育相談論や生徒指導論などでは子どもへの対応方法等について学んでいることと思います。

#### <教育心理学を学ぶ上での研究方法の学習の意義>

心理学関連領域の一番の特徴は、心理学実験法や心理学調査法、心理検査法といった研究法を学ぶということです。なぜ研究法を学ぶか。それは、心理学は実験や調査等の実証的なデータによって、人間のことを考えるというところが出発点だからです。ですから、研究法を学ばないとすれば、それは心理学を学ぶコースではありません。よって、研究法の授業をこれ以上削減するということは、教育心理学専修は無くなるということを示します。そのため、研究法の授業がなくてもいいということは、教育心理学専修は無くてもよいということを意味しています。では、心理学の研究法は教育現場に必要なのでしょうか。もちろん必要です。その点を以下に説明します。

#### <教師教育における心理検査法の意義>

心理検査法が教育心理学専修で行われているのには主に2つの必要性があります。心理検査は大きく知能検査と人格検査に分かれます。この内、知能検査は就学相談に大きく関係します。児童生徒が学級での学習、あるいは特別支援教室での学習のどちらがより適切なのを考えるにあたって知能検査で分かる知能は大切な資料になります。また近年は発達障害などの判定にも大きな役割を果たしています。この意味で知能についての考え方、またそれに基づいた知能検査について学ぶことは教員養成にあたって大きな意味を持ちます。また人格検査とそ

の背景にある人格の捉え方を様々な学ぶことは教員になって児童生徒理解に大きく役立ちます。現在、学校現場でも子どもを体系的に把握するための手法としてアセスメントという概念が導入されています。このアセスメントの考え方を心理検査法では学べるのです。しかし、現場では心理検査法について全く学んでない状態で、アセスメントに取り組むということが往々にしてあります。そのようなときに、学校に一人でも心理検査法について学んでいる先生がいれば、適切なアセスメントがおこなわれる可能性が高まります。このような必要性を持って、教育心理学専修では心理検査法が必修科目として開講されています。

#### <教師教育における心理学実験法の意義>

実験法は、調査法と並んで、客観的なデータに基づいて人間の心や行動を解明するための方法です。みなさんが学んでいる学びや人間行動に関する教育心理学的な知識がどのように見出されてきたか、方法から学ぶ機会があるのは、大学ならではのです。また、子どもたちが主体的に問題意識を持ち人間行動やところについて探究しようとするとき、それを支える教師の素養にもなります。

実験法や調査法、他の観察法や面接法(インタビュー法)なども、多くの人に共通する考え方や感じ方、行動の仕方のルールなどを知るために開発された方法ですが、実験法は、いくつかの条件を設けて、その環境下での人間行動を詳細に観察・分析することで、行動を引き起こす原因と心理的現象との因果関係を明らかにするために不可欠の方法です。さらに、調査や面接に比べてより厳密なものです。また、実験法は、必ずしも本人が意識したり言語化したりできない部分を測定によって明らかにする点も特徴と言えるでしょう。

教育心理学専修の実験法では、教育に関係のある基本的なテーマの中から実験を体験してもらい、実験・分析・考察という一連の流れに含まれる知的なスキルを身に付けてもらうようにしています。心理学以外でも実験法は用いられますが、心理学の領域での実験法は、特に人の心や行動を理解するために工夫されている点で、人間理解の具体的な方法ですので、単に研究する方法を学ぶというより、人間の行動とそれを左右する条件について客観的に考えようとする姿勢を身に付けられる場です。人と関わるうえでの倫理についてももしっかり指導されますので、専門家として人と関わる基本的な意識も大事にしています。それらはシラバスにある到達目標などに述べているとおりです。

#### <教師教育における心理学調査法の意義>

学校教育においては、児童生徒、保護者、教員、地域の人々、様々な人に対して、アンケート等を取ることがあります。このとき、もしも学校に調査法のことをある程度知っている人がいなければ、間違った結果を誘導することになります。そのため、アンケートの設計、分析、結果のまとめ、解釈等をしっかりと学んでいることは教師としての基礎スキルの1つです。教師の仕事というのは、教室で教えているというのは一部でしかないので、

また、調査法を学ぶ際には、統計学も同様にしっかりと学びます。教育評価(評価とは、テストを作成・採点し、そこから児童生徒の評価を行うことです)の考え方はもともと統計学から来ていますから、学校教育に必ず伴う教育評価をきちんと理解するには教育統計の知識は欠かせません。しかし、実際、学校には統計について適切に理解している教員が多くはないので、幼稚園から大学まで、教育評価の方法を根本的に誤って理解していることが多くあります。そのような状況であるからこそ、教育心理学専修では、教員として重要な素質の1つとして統計学も力も学ぶことになっています。

統計学や調査の手法というのは、頭がまだ柔らかく、時間もある学生の中に学ばなければ、教師になって時間が自由に使えなくなったときに学ぶことはもっと難しいことでしょう。ですから、学部の中に学ぶことが必要なのです。

#### <教師教育におけるカウンセリングに関する素養の意義>

教育心理専修でカウンセリングを学ぶべき理由として、ご存じの通り教育現場では不登校やいじめなどの問題、またそういったお子さんを抱える保護者さんの悩みなどカウンセリングの知識並びに実践なしでは対応できない場面が多く存在します。これは教員になるのであれば避けて通ることのできない課題です。

学校現場の先生方から見れば、教育心理学を学んだ教員であれば前述のお子さんや保護者さんに関わる際にカウンセリング的な関わりをすることが当然求められますし、そういった役割を自然と期待されるでしょう。

しかしカウンセリングの演習で不登校児童生徒のロールプレイを行うと、ほとんどの学生さんが教育実習や地域連携実習を経験して、多くの子どもさんに関わっているのにも関わらず、こういったお子さんへの関わり方が不得手であることが分かります。しかし学生さんたちがカウンセリングについて実践を通して学んでいくことで、問題を抱えた子どもさん並びに保護者さんへの関わり方を少しずつ学んでいきます。こういったことは教員となり、学校現場で子どもさんに関わるときに大きな即戦力となります。

また、視点を変えればカウンセリングで行う子どもさんに行う発問は授業などに応用可能であると考えています。カウンセリングで行う発問を学ぶことを通して、こういった授業の発問にもよい変化が現れると考えています。教育心理専修の謳う「子どもの心に寄り添う教員」を目指すのならばカウンセリングを学ぶことは当然にして必須と言えます。

## ●国語教育専修

大学のシラバスの内容と実際の授業内容が全然違うことがよくある。大学の授業なので、はじめにあった授業内容から広がってずれることはあると思うが、あまりにも違うということはどうなのかと思った。

→(張)シラバスは学生と教員との間の契約事項である。入力時点ではわからなかったことを付け加えるということはあると思うが、ご指摘のような「あまりにもかけ離れている」というのは問題である。契約通り行うよう見直してゆきたい。教員に伝える。

教育実習期間中に、小学校から中学校へ、中学校から小学校へ通常授業あるいは研究授業を見ることはできないか。せっかく隣通しに学校があって同じ期間実習をしているので、交流をすることができると、小学校と中学校の連携も自分の中で高まってゆくのではないかと思う。

→(竹永)小学校と中学校を同時にということであるが、可能であるのは、2年生のプレ教育実習である。3年生の先輩の教育実習の観察という限定された内容であるが、十分観察はすることができる。しかし、3年生の教育実習となると、内容が決められて過密なものになるので、自由に校種を替えて観察ということは日程上難しいと思う。

→(進行)今の要望は、実習中に授業を見に行きたいというニュアンスだと思うが。

→(学生本人) (学生本人) 授業も見たいし、自分の同級生がどのように授業をしているのか見たい。

→(進行)見る時間を作ることも難しいか。

→(竹永)それぞれの曜日ごとのスケジュールがあるだろうから、それに合わせて時間がとれるようであれば、可能であろう。希望を伝えていただければ、できるだけ実現するように依頼したい。

## ●保育士養成コース

保育士コースとは関係はないが、ポートフォリオについて質問がある。期間中にポートフォリオの提出をしたが、それに対してやり直しという形でほとんどの学生に返却されてきた。この添削はどのような先生が行っているのか。

→(進行)教職コーディネータの先生がやられている。

ポートフォリオを記入するパソコン画面には、色々な質問の中で「特記することが難しい場合は、特記する事項なしと記入してもよい」というのがあったが、それを書いた学生にはほとんどの場合は「？」とか「×」と添削されて返ってきた。実際に授業を受けていない先生がたが、それを見て「？」とか「×」を書かれるのは少し疑問がある。

→(進行)それは、システムに指示をされている通りにやったのに、差し戻されてきたということに対して疑問があるということか。(同意)

→(進行)本日は担当している人がいないので、保留とさせていただき、後日ホームページで回答する。

**【追記】：山崎哲司教職コーディネータより以下のコメントを頂いております。**

特記事項なしというのは何も学んでいないということの意味することですので、再度確認を求めました。またそういう意味での修正要求であることについて周知をお願いしていますので、もし伝わっていないとすれば教育体制の問題ですので、改善を図ります。

## (2) 教員採用、一般就職に関する取り組みについて

### ●生活環境コース

生活環境コースは教員免許を取らないでもいいので、周りでも就職活動をしている人が多い。それら人の話を聞いてみると、教育学部なので、教採についてのガイダンスや講座は充実していると感じるが、他学部と比較して一般就職についての早い時期から就職活動をする人へのガイダンスや就職活動を支援する講座や情報が少ないと感じている。

→(進行)どのくらいの時期からほしいか。

私たちの学年から12月から開示になり、就職活動が始まっている。本格的に意識し出すのは(2回生の)夏休みを終わってからであるので、そのくらいから本格的に向かってゆけるような講座があれば、12月から本格的に開始できるのではないかと。

→(石井)本年度に関しては、12月1日に企業対策講座を行っている。プレビジネススクールは10月から毎週木曜日に実施している。本年度は前年度と比較して回数は減少したが、総時間数は同じである。特定の企業担当者が来られ、個別に企業説明会をやっている。ただし、他大学、他学部との比較した結果は把握していない。比較して、教育学部は民間企業希望者に冷たいという感を抱いているのか。

私は、プレビジネススクールに参加したが、それを友達に言うと「そんなのあったの？知らなかった。」という人が多い。自分から情報を得てゆかないと就職活動は無理だと思うが、情報のブランク・タイムラグのようなものがある。私たちが就職活動に力を入れていると感じる学部では、学部の学生だけが参加できる説明会があったという話を聞いたりする。私たちは「自分たちが情報を集めにゆかないとだめなんだな」と感じているだけかもしれないが、そのような声はよく聞いている。

→(石井)就職支援課に足を運んだことはあるか。

→(学生本人)何度も通っている。

→(石井)待っていては、何も得られない部分がある。今の時代は大変だと思う。自分から情報を求めて動くことは、絶対条件だろう。愛媛大学の中ではなく、全国の大学生と競争しているので、それを意識する必要がある。他学部や他大学と比較して、対策講座やプレスクール等が量的質的に劣っているとわかった場合は、反省し改善する。比較検

討してみたい。

→(進行)他の学生さんはどのように感じるか。教育学部は足りないということであれば、教えてもらえると助かる。

#### ●大学院学校臨床心理

学部3回生の夏頃、リクナビのガイダンスが開催されたと思うが、自分としては3回生の夏から参加しているということは早い時期から意識して動いていると感じていたが、県外の大学生と参加したときに、「愛媛大学ではまだ、3回生向けに就職サイトに登録をするようなガイダンスをしているのか。遅すぎるのではないか。」という意見があった。愛媛県にいと愛媛の中の動きしか見えなくなるが、県外の学生に聞くと、3回生の夏では遅いという気がする。

→(進行)何年生くらいがいいか。

→(学生本人)2回生の冬くらいにガイダンスがあればいいのではないかと思う。

### (3) 学習環境について

#### ●情報教育コース

授業で使用されていない教室を学生が使用するには許可が必要とされている。自分たちの学生控え室で他の学年が勉強している時には、話し合いの活動等ができない。空き教室を(届け出なしに、自由に)使えないか。

→(山本)どこの教室を使用したいのか。

2号館の演習室を今までは黙って使っていると、教員に注意されたことがある。普段は使用していないところであれば、使用してもいいのではないかという意見が出た。

→(進行)要するに、届け出をしなくても気軽に使いたいということか。

→(山本)人数による問題がある。広い部屋を2~3人で使用するという事は、電気代の関係がある。節電をしなければならない。学生の皆さんは、自由に使っているのだけれど、使い方にもよる。総務としては節電を考えなければいけない。本館の2階の演習室は10名程度の部屋なので使ってもいいが、全員が使いたい訳であるから、整理の意味でも手続きが必要だと思う。教員も使用することがあるので、調整が必要である。

→(日野)本館の演習室は、以前は鍵をしていなかったが、使用の仕方がひどく、汚してそのままゴミを置いて帰ることがあったので、管理するようになった。よい環境で勉強していただきたいが、管理上、総務に届けを出してほしい。

→(進行)今の説明は、無条件に使用することはできないけれども、使えないということではないということなので、あいている部屋があれば、声をかけてもらえば使用ができる。

#### ●社会科教育専修

3号館の休日の入棟について質問をしたい。他の棟は講演会や講座等で、扉が開いていることが多いが、3号館はあいていることが少なく、土日でも入りたいたが入れない。また、10時以降に守衛さんが来るが、その時間を延長してほしい。

→(山本)本来は、鍵を開けていることは許されない。3号館の状態が正常である。本当は、イベントなどでも1回1回閉めるべきであるが、教員が面倒がるので、鍵を開放したままになっている。2号館では、音楽の部屋に不審者が入ったりしているので、施錠するように呼びかけているが、守られていない。10時の守衛の見回りは大学で決められている

ことであるので、電気錠も同じ時間に閉まるようになっている。10時以降も勉強するということは、学生の健康状態のことを考えると、帰宅して体を休め、次の朝に登校してほしいという意図がある。10時を遅くすることは不可能である。

申し込みをすれば大丈夫か。

→(山本)申し込みをすれば使用できる。使用願いをきっちり出してもらいたい。教育学部は実験系ではないので、工学部のように終日データを取らなければならないということは滅多にない。その場合は教員が付いて、徹夜しますので、ここを使わせてほしいという届けが出ている。論文や教育実習等で遅くなるときは、届けを出せば使用を許可している。

→(三浦)教育学部は女性の割合が多い。真夜中に活動してほしくないということは基本的にある。そのような時間に何かあったときに、届け出をして活動していますということであれば、その人は目的があってそこにいたのだという証明になるが、そうでないときは、なぜいたのかということになりかねない。そのような意味では、きちんと届け出を出すということは、そのようなことにならないよう自分を守っていることになる。10時以降の使用を全く禁止しているわけではないので、学生も教員も届け出という形で対応してもらいたい。

## ●大学院臨床心理

原付バイクの駐車スペースがメディアセンターの横だけになった。以前は、エミカショップのあるところにおけるようになっていたが、駐車できなくなった。臨床心理学の授業では持田で授業を受けることがあるが、教育学部との距離があって行き来が大変である。4号館の前にバイクの駐車スペースをつくれば、授業にも参加しやすくなる。

→(進行)駐車場の位置はどこが決めているのか。

→(事務課長)城北地区の交通専門部会が決めている。24年度の計画では、基本的に自転車も通さないという計画にしている。バイクスペースも建築中の第三体育館の西に立体駐車場を作る。バイクスペースも作る。平成24年度いっぱいはいかかると思うが、若干は教育の方に近くなる。

→(進行)今の希望は、大学の東側にほしいということだと思うが。

→(事務課長)それは無理である。そのスペースがないし、中に入れると、今でさえ自転車と人が多い中で、事故になりかねない。基本的には整理をして、自転車も構内は遠慮してほしいという気持ちがあるのだろう。

学部をバイクで走るということはないと思うが、東側の門から入るときは、バイクを降りた状態で駐車スペースに向かう。自転車を止めるスペースがこんなにあるので、少しバイクを止める場所があれば、エミカのショップを利用するときも気軽に立ち寄ることができる。

→(事務課長)気持ちはわかるが、人・自転車・バイクが入ってしまって、交通事故が起こるようなことは避けなければならない。人間の力以外のものを入れて怪我などされると迷惑がかかる。昔は確かにバイクで構内を走っていたことがあるが、学生が増え建物が増えた今では、大学は安全を第一に考えている。

## ●国語教育

国語教育専修の合同研究室があまりにも狭い。国語教育は他専修と比較しても人数が多いのに、なぜあのように狭いのか、とても不思議である。人数の少ない専修でも広い学生研究室があるのに、なぜ国語にはないのかという意見が毎年出る。汚さ・古さはかまわないが、隣と一つの部屋を半分ずつ使っている。壁を柵で仕切り、声もつつ抜け。勉強がしづらく、物も取りにくく、いいことが一つもない。

→(三浦)ご指摘の通りである。専修によって随分差があるのは承知している。すぐに手がつけられるのかどうかということについては難しい所があって、極端な話、交換する代わりに別の建物に行けということにもなりかねず、どちらが便利なのかということになりかねない。今も、ある専修は、先生がたがっている所から随分離れた場所に部屋があって、その解消が課題になっている。皆さんには遠い話になると思うが、教員免許状を4年ではなく5年～6年で取ろうという話がでているが、少なくとも半年から一年の間に見通しが付くと思う。その学生が実際に入ってくるのは先になるが、入学してくれば専修の人数の動きがでてくるので、その次点では動かしてゆかねばならないという見通しは持っている。今の次点では手を付けにくい状態。課題として認識しているので、いろいろなタイミングで考えてゆきたい。

## ●教育学専修

教育学部にゴミ箱を置いてほしい。

→(山本) 教育学部から出るゴミを私がほとんどチェックしているが、だいたい分別ができていない。去年まで2号館の1階においていた。そうすると、いろいろなところからゴミを捨てにくる。分別せずに捨てる。もちろん学生さんだけではなく、教員もゴミ箱を持ってきて捨てている。そのようなことが続いた。分別していれば問題ないが、とにかくひどい。今回も、学生さんから要望があると予想して、担当で相談して回答を準備してきた。ゴミ箱を置いてもいいが、そのかわり学生が管理すること。学生が毎日毎日分別して、ゴミを捨てること。そのためには教員にも協力してもらわないといけない。3号館4階の社会科準備室に印刷機械を置いている。そこに社会科の教員や学生が使うゴミ箱を置いているが、そこにも所属でない学生が捨てに来たり、教員も捨てに行っている状態である。ちょっとでもゴミ箱を置くと、色々な人が来る。総務としては、「自分たちで管理をするのであれば、ゴミ箱を置く」。昼休み終わったあとを見てほしい。ゴミが弁当殻でてんこ盛りになっている。

→(張)社会科の立場で言えば、山本さんの指摘通りである。ゴミ箱を置かければ、ゴミを出さない工夫をする。多少不便ではあるが、ゴミを減らすような努力が必要。

→(進行)今の回答を持ち帰っていただき、ゴミ箱がほしいという意見は昨年もあったので、自分たちで管理をするのであれば、ゴミ箱は置くということをお伝えいただきたい。

自由に使用できるパソコンを増やしてほしい。

→(日野)昨年も要望があったが、学生のパソコンについては各教科に予算が付いているので、教科で購入することになっている。それでは足りていないということか。

→(進行)専修の中ではなく、どの場所にほしいのか。

→(学生本人)たぶん、パソコン室のことではないかと思う。

→(山本)2号館の3階に情報処理実習室があるが、そこ以外にほしいということか。

→(進行)他の講座の人はどうか。パソコンが足りていないという所はあるか。(国語・特別支援教育が挙手)

→(特別支援大学院学生)大学院はプリンターのトナーがない。

→(立入)言ってもらえばすぐに購入する。トナーがあるかどうかは教員はわからない。

→(特別支援発達学生)私たちの研究室(4号館3階の合同研究室)にはパソコンが1台もない。不便をしている。

→(山本)5階に引っ越したのでは。エミカキッズができて、聴覚言語と発達障害が分かれたのでは。

→(特別支援発達学生)学部の学生の部屋は4号館の3階にあるが、院生の控え室が、3号館の6階にある。

→(三浦)具体的に「ここに何台ほしい」ということを教員に伝えてほしい。教室の中で購入することもあるし、他の予算を動かすことも不可能ではないと思う。トナーなどは気軽に言ってもらいたい。

→(進行)国語の学生さんはどこにほしいのか

→(国語学生)どこにほしいということではなく、ずっと少ないと思っていた。合同研究室に1台はネットにつながるパ

ソコンがほしい。

→(三浦)先ほどの話のあった部屋であるが、スペース的に難しい。

バイク置き場に屋根がほしい

→(事務課長)今の計画では、車もバイクも立体駐車場ができる。今の置き場は撤廃するようになる。今の場所に屋根をつけるのは難しい。バイク置き場と車置き場は別の建物になる。場所としては、バイク置き場は、今建築中の第三体育館の西側になる。車の置き場は、今のテニスコートあたりに作る。テニスコートはメディアセンターの東に作る。新年度から動いてゆく。

#### ●幼年教育

2号館3階の情報処理実習室を使用したいと思ったときに、教室の中で授業が行われていることがあり、外からはわからないので、部屋のドアのところに、授業が行われているかどうか分かるようにしてほしい。

→(観音)以前は掲示したが、最近はやっていない。教務委員会で時間割りがわかると思うので、対応したい。

→(進行)教務委員会の方で引き取り、4月の時間割りから掲示をする。

#### ●国語教育

学生の呼び出し、時間割りに関する掲示板について、整理するか掲示期間を短くして、わかりやすくしてほしい。卒業論文の指導教員届に付いての掲示が、学生呼び出しの所に貼られていた。専修振りわけの掲示が4ヶ月貼られていた。

→(田中)注意したい。ただ、時期によっては、特定の掲示が多く、ある程度決めている枠組みに入らないことがあることは理解いただきたい。できるだけ枠内に収めるよう注意し、期間についても気をつける。

→(進行)教育学部は、掲示物が他の学部よりも多い。実習の掲示もあわせて掲示していたが、わからなくなるので、教育学部1階に掲示するようになった。もともと学部の所にあったのを教育支援課の所に持っていったので、学生さんには不便をかけている。できる限りわかりやすく掲示をするようお願いしたい。

### (4)その他

#### ●国際理解教育コース

2, 3回生は、他の学年よりも夏休みが長いと思うが、私たちは教育実習に参加しないので、空白の期間ができてしまう。他の学年に比べて、取り残されたような感じがするので、教育実習をしていない期間に学生に何をしてほしいのか希望があるのか、また、もう少し早く授業を始めることはできないのかという思いがある。

→(張)教育実習があるので、教育学部の2, 3回生だけ、授業暦が違う。生涯学習群と教員養成課程の授業は同時に開講するものもあって、どうしても配慮が必要になる。その時間を有効に使うのが、教員側も課外学習を含めて検討したいと思う。

→(進行)課題を出してほしいという意味なのか。

→(学生本人)そういう意味ではなく、私たちのことは見えているのかということ。

→(進行)少しはっきりしない部分があるので、更に検討をする。

## 【追記】国際理解教育コース 小助川元太先生より以下のコメントを頂いております。

国際理解教育コースについては、すでに学生から、学生同士の上下関係が疎遠であるという不満の声を聞いています。この点については、来年度は改善できるように計画を立てているところです。また、教育実習に関連して出された意見ということですので、学校教員養成課程の学生と比較して、教員の学生指導への手厚さの違いを感じているのかもしれませんが、我々教員は、学校教員養成課程の学生も、生涯学習群の学生も、同じように大切に考えており、どちらかを優遇しているわけではありません。学校教員養成課程では3年次での教育実習という大きな行事があるため、生涯学習群の学生からすると、疎外感を感じてしまうのかもしれませんが、それはプログラム上仕方のないことです。とはいえ、このような疑念が出されたということは、これまでの我々の生涯学習群の学生への対応が不十分であったのかもしれませんが。今後は学生にそのようなことを感じさせないよう努力をしたいと思えます。困ったことがあれば、主任や学担に遠慮なく相談をしてほしいと思います。

### ●理科専修，大学院

留学生について、学務に提出する書類や授業で行うアンケート等を、英訳するまではいかなくても漢字に読み仮名を振るだけでもしんどさが違うので、検討してほしい。

→(進行)英文表記については、学長も「愛媛大学がこれから進めてゆかねばならない」という発言をされた。大学として進むのではないか。細かい点では、アンケート、カリキュラムなどの教学に関する事、提出書類についてはどのようにするか。

→(張)書類というのは、教育学部チームに提出する書類のことですね。私も本留学生で、今の指摘はよくわかる。漢字を読めない時に振り仮名を付けるとわかったりする。よい提案だと思う。ご指摘のアンケートだけではなく、留学生に配る配布資料にもある程度振り仮名を付けるという工夫は必要かもしれない。教務委員会からお願いできる場所はお願いする。

→(田中)できる範囲でということしかないが、具体的にどのような書類ということは聞いていないか。

→(学生本人)チューターの人に関わっている書類。

→(竹永)教育コーディネータとして。ティ칭ングアシスタントやスチューデントアシスタントという制度がある。アンケートは非常に増えていると思うので、ルビ振り程度は活用できるのではないか。

→(進行)学部のことは教務委員会が呼びかけをし、記録に残したい。全学的なことに関しては、教職コーディネータから働きかけをいただきたい。

→(竹永)アンケートを行う教員が増えているので、新しくできたティ칭ングアシスタントやスチューデントアシスタント制度を活用するよう呼びかける。

→(進行)事務的な書類に関しては、教育学部チームで対応していただきたい。

### ●音楽文化

個人的な意見であるが、教職支援ルームに昼間に行ったら、開放中という表示があったにも関わらず誰も中に入らなかった。隣の部屋で集まって昼食を取っていた。皆さんが楽しそうに昼食を取っているところを邪魔するように入っていくにくい。提出物があつたので困った。私は一度しか行ったことがないが、いつもそのような状態であるのかはわからないが、誰か一人は部屋にいるようにしてほしい。

→(三浦)教職支援ルームのスタッフは一人。昼食を何人かで食べているのは、ただ仲のよい教員達が集まっているので、部屋に常にいることはできない。その部屋に入りにくいという気持ちはよくわかる。職員の休み時間を確保することは労働基準法にも関係する大切なことであるが、伝えておきたい。

→(進行)勇気を持って入ってほしい。

#### ●特別支援, 大学院

現在院生室に鍵がかからない。鍵がない。

→(立入) 鍵はあるが、現在学生には配布していない。今後対応したい。

→(山本)技術教育で購入したが、ドアノブにかけておき、その中に鍵を入れて暗証番号を入れるとその鍵が出てくるものがある。それをすると便利ではないか。

→(立入)コースの研究室はそのようにしている。

→(進行)今の要望は、専修教員が対応するので、少し待つてほしい。

#### ●英語教育専修

2号館のことであるが、英語の学生研究室では、廊下にでないWi-Fiの電波が飛んでこない。ノートパソコンを持ち込んだときに、廊下に椅子を持って出て作業をせねばならない。部屋の中でも電波を拾うことができるようにしてほしい。

→(森)基本的には、Wi-Fiは教員が無線LANで電波を飛ばすようになっていたと思う。英語で必要であれば、英語の教員に無線LANを買って取り付けてもらえば、設定は簡単で使えるようになる。

→(観音)教育学部の近くの建物の情報メディアセンターから無線LANの電波が来ている。私は使ったことがないので確認してもらえればと思うが、メディアセンターのIDとパスワードがあれば使えるようになるかと聞いている。

→(立入)教室でも使用できる。メディアセンターのIDとパスワードを入れれば使える。

→(学生本人)他の英語の学生達に意見を聞いたところ「部屋にWi-Fiが飛んでこない」という意見が多く出された。

→(進行)大学からの電波があるはずなので、メディアセンターから割り振られているIDとパスワードを入れればつなげるはず。

→(立入)インターネットエクスプローラー等が出て、メディアセンターの画面が表示されるので、IDとパスワードを入れる。

→(張)教育学部のほとんどの教室では使えるが、研究室はどうですか。2号館は電波が行かないのでは。3号館2階は届かない。

→(学生)2号館北側の数学の合同研究室は飛んでいる。情報教育の部屋も飛んでいる。

→(進行)では、もう一度試してもらって、電波が拾えないようであれば、教室の教員に声をかけてほしい。

#### 【追記】教務委員会より

会議後、無線LANの接続状況を、担当が確認しましたが、教育学部2号館の東2/3程度と、4号館のほぼ全部では接続できない、あるいは電波が弱いということが確認できました。その対応として、教育学部から全学無線LANを管理する総合情報メディアセンターに、教育学部全域でWi-fiの接続ができるよう改善の要望書を提出しています。

→(進行)皆さんの意見は、本日解決できなかったこともあるので、持ち帰って担当の方に確実に伝え、解決できることについてはすぐに対応し、時間のかかるものについてはなるべく来年度までに解決をして、来年度の会で報告いただきたい。

# 平成 23 年度学生モニター会議参加者名簿

在学生代表 23 名(氏名は省略します)

## 教職員

所属委員会等	氏名
評議員・副学部長	三浦 和尚
教育コーディネータ会議	竹永 雄二
総務委員会	観音 幸雄
教務委員会	張 貴民
入試委員会	立入 哉
学生・就職委員会	石井 浩一
国際交流委員会	東 賢司
安全衛生委員会	森 慎之助
実習カリキュラム委員会	竹永 雄二
教育学部事務課長	和田 邦夫
教育学部事務副課長	中宇禰 晴生
教育学部総務チーム	日野 さゆり
教育学部総務チーム	神野 亜紀子
教育学部総務チーム	山本 佳奈
教育学部総務チーム(学部HP掲載担当)	平田 智照
教育支援課教育学部チーム	田中 加代
教務委員会・FD ワーキング	張間 忠人
教務委員会・FD ワーキング	秋山 正宏
教務委員会・FD ワーキング	加藤 匡宏
教務委員会・FD ワーキング	大橋 淳史
教務委員会	杉林 英彦
教務委員会	宇高 順子
教務委員会	石塚 真子
教務委員会・FD ワーキング(進行)	東 賢司